

皆さま、こんにちは。

一月のミシガンは、雪が本格的に降り積もってきました。普段は徒歩で5分かからない通学路も、凍って滑りやすくなっており、いつもより時間をかけて登校しています。雪が降ってからは一層車移動が多く、歩道にもほとんど人の姿を見ません。ここに住む人のほとんどが、免許を取得できる高校生のうちから一人一台車を持っている理由が分かったような気がします。



(左) クリスマスパレードの開会パフォーマンスの様子。クリスマスメドレーを演奏しながら町中を練り歩きます

(右) 毎日ツリーの下がクリスマスプレゼントで少しずつ埋まってきました。

一月中盤にファイナル(期末試験)期間があり、九月から始まった一学期が終わりました。小石川での試験とは少し違って、欠席数や成績によっては免除され、必要に応じて個別で受けるというものでした。翌週からは二学期が始まり、また忙しくなってきました。今学期の私の時間割は以下の六教科です。

- ①Economics (経済) ②High School Band (吹奏楽) ③Physics (物理)
- ④Speech (スピーチ) ⑤Life Sports. Fitness (体育) ⑥Pre-Calculus (数学)

経済は少し難しいですが、数学は日本に居た時期の方がよりボリュームがあったせいか、どちらかというように楽に感じます。物理は相変わらず力学をやっています。グループごとのゲームや実験が多く、毎日楽しみなクラスの一つです。

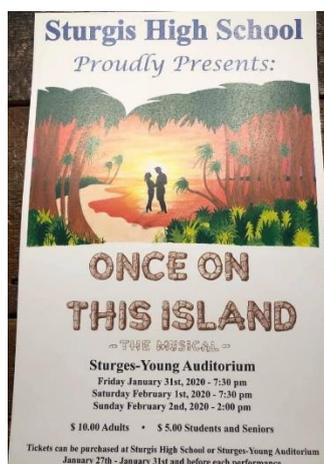
スピーチは、現地生の卒業までの必修であるとともに、留学生の必修科目でもあります。クラスメイトのスピーチはユーモアたっぷりです。私は、漢字の部首についての説明をしました。

前学期と同じ教科でも、時間帯を変えたものはクラスメイトが完全に変わったので、新鮮な気分です。また、校舎が平屋で生徒数も少ないせいか、クラスが離れた友人とも廊下ですれ違うことが多く、見つけると声をかけあって楽しいです。

さて、冬の課外活動としてミュージカル“Once on This Island”に出演しました。一月最終日～二月初週の金土日に、三夜に渡り本番があり、無事に終わることが出来ました。

11月頃から週3～5回程度、役ごとに違う日に集まって、放課後～17時半の練習をし、全20曲の歌とダンスを仕上げました。直前1週間は”Production Week”と呼ばれ、本番と同じステージ、衣装、メイクアップでのリハーサルが、毎日21時まで続きます。

メンバーはオーディションで選ばれ、2回以上の練習への遅刻、あるいは1回以上の無断欠席で本番に出られなくなる、という規則がありました。有難いことにメンバーに選んで頂き、最後まで体調管理も出来たのでホッとしています。



(左) メンバーで作ったチラシです。

(右) プロの同作品を観覧、シカゴのシアター前で。

更に、有志のメンバーと一緒に電車で片道二時間以上かけてシカゴに行き、Broadway in Chicagoで本場のショーを観ました。英語でミュージカルを観たいとずっと思っていたので嬉しかったです。また、Production Weekの直前に行ったので、学んだセットや動きを活かされたのも良かったです。

鑑賞後は特別に、キャストの方お二人に質問の時間を頂きました。そのうちの一人は大学を出てからミュージカルを目指し始め、他のミュージカル女優よりもかなり遅いスタートだったものの、今では主役を演じるようにまでなったそうです。彼女に質問した時に、「周りと比べたり、今の実力を勝手に測ったりすることで自分の可能性を狭めないで」と言われたことが印象に残っています。先への不安から安全を取るのではなく、自分のやりたい事に本気で向き合う姿に感銘を受けました。

歩いている時に性差別反対のデモに遭遇したり、アメリカに来て初めて日本人の方に会ったり(日本語が聞こえたので思わず話しかけてしまいました。観光中と言っていました)、半日の滞在でしたが印象的な日になりました。

アメリカでは、日本の美術や音楽のように「演劇」の授業が一般的で、専任の先生が指導されます。ひとりひとりがその個性をいかしチームの一員として活躍することが求められていて、その背景には、人種問題や貧富の差、教育や職業格差があり、「コミュニケーション手段の習得」「アイデンティティ形成」「コミュニティ形成」を目標に活発に取り組まれているようです。

小石川の行事週間の劇は、全面的に生徒自身が行いますが、こちらでは、先生のプロデュース中心のスタイルで、どちらも良さがあると思いました。



(左) 舞踏会のシーンです。着替えて移動して、とステージ裏は常に大忙しでした。

(右) 写真には居ませんが、ボランティアで裏方をしてくれた生徒・先生方に感謝しています。

1番、2番、3番で微妙に変化する歌詞を20曲分覚えるのが、私にとっては難しく苦労しましたが、メンバーはみんな賑やかで、直前期になり忙しくなればなるほど、むしろ楽しく過ごせました。

秋には別の劇に入っていたのですが、BGMをほぼ使わない劇と、歌がショーのほとんどを占めるミュージカルは全く違うものでした。個人的には、セリフを自然に言う劇の方が難しく感じました。どちらも素敵なメンバーに恵まれて、良い思い出になりました。

今後も頑張ります。

田中